

Which is it 疑問文の意味と用法

大竹 芳夫 言語教育講座

0. はじめに

英語には次のような Which is it の疑問文が存在する。

- (1) a. Doctor: *Which is it?* Go back to Walbrook or stay with Charlie Babbitt?
(Movie Script from *Rain Man* (1988))
- b. So *which is it?* is there progress or isn't there?
(*The Guardian*, February 12, 2001)
- c. So *which is it*, Logan – meaningful or fun? (H. Stein, *The Magic Bullet*)

(1a-c)はいずれも Which is it が選択疑問文を従えている構文である。(1a)は「どっちなんだ？ Walbrook のところへ戻るのか、それとも Charles Babbitt と一緒にとどまるのか？」、(1b)は「それで、どっちなんだ？進歩があるのか、それともないのか？」、(1c)は「それで、どちらなんだ、Logan？意味があるのか、それともおふざけなのか？」といった意味になる。(1a-c)のような Which is it 疑問文は実際の談話で頻用されるにもかかわらず、従来の語法文法書や英語学習辞典ではほとんど取り上げられてこなかったように思われる。本稿では、Which is it 疑問文の構造および基本的な意味特性を明らかにしながら、その談話機能の詳細について考察する。また、Which is it 疑問文と日本語の「のか」で終わる選択疑問文との比較・対照を通して日英語の普遍性について論ずる。

1. Which is it 疑問文の構造

Which is it 疑問文の意味と機能を論ずるに先立ち、その統語的成り立ちを確認しておく必要がある。Which is it 疑問文の疑問詞 *which* と代名詞 *it* のどちらが主語要素であるのかについて、他の *wh* 疑問文に関する分析に敷衍しながら検証しよう。安井(1996)は、次の(2)における疑問詞 *who* が主語であるか補語であるか曖昧であることを指摘している。

- (2) Who is the President of the United States?

(2)は構造的に二通りに曖昧であり、*who* が主語であるならば「だれが合衆国の大統領ですか」、補語であるならば「合衆国の大統領はだれですか」といった意味になる。安井(1996)は、次に示すように、助動詞を含む場合にはどれが主語であるかによって形が変わることに着目している。

- (3) a. Who will be the next President?
b. Who will the next President be?

(3a)の主語は *who* であり、(3b)の主語は *the next President* であり、それぞれは次の(4a-b)に対応する疑問文である。

- (4) a. *Somebody will be the next President.*
- b. *The next President will be somebody.*

これらの *Who* 疑問文と同様に、*Which is it* 疑問文もまた二通りの分析可能性が想定される。一つは *it* が主語で、補語の *which* を疑問化することによってできた疑問文とする見方、もう一つは *it* が補語で、主語要素の *which* を疑問化することによって派生された疑問文とする捉え方である。本研究では、*Which is it* 疑問文の *it* は主語要素であると仮定する。この仮定が妥当であることは実際の談話で助動詞 *will* や *be going to*、*be to* が生ずる場合の語順を検証することで裏付けられる。

- (5) *Calolinus: On the top of the earth below us, confusion and chaos reign. All mankind is facing an epic choice: a world of magic or a world of science. Which will it be?* (Movie Script from *The Flight of Dragons* (1982))
- (6) *WASHINGTON - So which is it going to be: the thick white coaxial cable coiled up behind your television set? Or the thin plastic phone cord behind your desk?* (*Washington Post*, June 29, 1998)
- (7) “Well now, Mr Eden,” Mitchell began, “with your very considerable experience of foreign affairs, it’s quite obvious that I should start by asking you something about the international situation today - or perhaps you would prefer to talk about home? *Which is it to be?*” Eden opted for home affairs. (*The Guardian*, November 11, 2000)

Which is it 疑問文の疑問詞 *which* が主語要素として働くのであれば、次の(8a-c)に示す語順をとらなければならない。しかし、実際には疑問詞 *which* を主語に据えた語順は容認されない。

- (8) a. **Which is going to be it?*
- b. **Which is to be it?*
- c. **Which will be it?*

(5)-(7)の疑問文を本稿で扱う *Which is it* 疑問文と関連付けて考える理由は、次節で検証するように、両者が類似した意味や機能を示すことから裏付けられるものである。

さて、*Which* は選択疑問詞であることから、*Which is it* 疑問文が用いられる前後の文脈には選択的な情報が提示されていなければならない。実際の用例を観察すると、その提示方法は一様ではない。まず、選択対象となる情報が *Which is it* 疑問文に先行して *A or B* の形で生ずる場合がある。先の(5)、(7)の他に、次のような例がある。

- (9) a. Cynthia: Well, either you are or you aren't; *which is it?*
 (Movie Script from *Sex, Lies, and Videotape* (1989))
- b. Just said from behind newsprint as Even approached, "I do say, Even Grade, somebody dead? Or Hercules Powder givin' overtime to their most talkative nigger? *Which is it?*" "Somebody dead."
 (CNN.com, July 7, 1999)

Which is it 疑問文の直前に(9a)では "either you are or you aren't"、(9b)では "somebody dead? Or Hercules Powder givin' overtime to their most talkative nigger?" と二つの情報が選択的に与えられている。これに対して、(1a-c)や(6)のように Which is it 疑問文の後続文脈中に選択情報が A or B の形で提示される場合も確認できる。

また、選択対象となる情報が接続詞 *or* を介して明示的に結び付けられるのではなく、相反する意味内容を担う命題情報が対立的に提示され、それが選択的情報として聞き手に推論される場合がある。次例を考えよう。

- (10) a. QUESTION: You said he was outraged this morning. Now, you say his reaction is a matter of fact. *Which is it?*
 MCCURRY: I've given you the statement that he's outraged about the allegations. I'm telling you about the business that the president has attended to on behalf of the American people.
 (CNN Transcript of White House Press Secretary Mike McCurry's Briefing, January 21, 1998)
- b. He also favors big type - easy to read - and big graphics - so customers can see more details. But he also recommends small files so pages load fast. All right, *which is it?* (CNN Money, October 20, 2000)

(10a)では Which is it 疑問文の先行文脈に過去と現在の言明が対立的に提示されており、「あなたは今朝彼が激怒したと言ったが、今度は彼の反応は自然だと言う。一体どっちなんですか?」といった意味になる。(10b)においても、Which is it 疑問文は先行文脈中の接続詞 *but* で結び付けられている二律背反的な事実を受けて発話されていることが確認できる。次の例では Which is it to be? に先行する文脈に、"To the right, ... Alongside it, to the left, ..." と二つの命題情報が並列的に提示され、対立する二つの情報が話し手の念頭に想定されていることがわかる。

- (11) To the right, looking from the players' dressing room, was a surface devoid of grass, mud-coloured and, although still damp, cracked. To all appearances, except the moisture content, it is similar to that in Lahore. Alongside it, to the left, was something that may have been rolled, is certainly hard, but on which a herd of yak could graze happily for a month.
 So *which is it to be?* The groundsman insisted that no decision had

been made and that, when it was, it would be by the officials of the local cricket association and not Javed. (*The Guardian*, November 27, 2000)

本節では、Which is it 疑問文が it を主語要素とする構造をもち、前後の文脈に選択的情報が提示されることを確認した。

2. Which is it 疑問文の意味

前節で確認したように Which is it 疑問文は主語の it についてそれがどちらであるのかを問う疑問文である。そこで、第一に Which is it 疑問文に生ずる it の特性について考えよう。It はその指示対象が話し手の知識において情報としてすでに定まっていることを表現するのが基本的意味である。Bolinger (1977)は次のような例を引き合いに出して、it が用いられる場合、それが指し示すことがらがすでに既に確定した共有知識になっていなければならないと論じている。

(12) I do not believe it that the election hurt them.

Bolinger (1977)によれば、(12)の it の使用はすでに話題として持ち出された事実を引き合いに出す解釈が得られる場合には自然であるが、新しい話題を切り出すような場合には不自然であるという。具体的には、(12)は人の意見に異を唱えるときには問題なく用いられるが、選挙ニュースを携えて部屋に入り、そこに居合わせた人にそれを知らせる場合には用いられないと説明する。次の例もあわせて考えよう。

(13) He won't believe it that I am better than he is.

(14) ?I won't believe it that he is better than I am.

Bolinger (1977)は、(13)の文では、話し手は自分の方が彼より優秀であると主張していて、その主張は彼の考えとは無関係に事実としてある、つまり it を the fact と等価なもの(it=the fact)として捉えている。一方、(14)の場合には、話し手自らが立てた一つの命題を容認しかつ否定するということが生ずる見込みはないので不自然となる。(14)の it を the fact に置き換えても、その容認可能性の判断は全く変わらないと述べる。Bolinger は it があることがらがすでに導入済みであったり、確定した共有知識になっている場合に用いられることを明らかにしている。Bolinger (1977)は、本研究で論ずる Which is it 疑問文については何も言及していないが、彼の it に関する分析は Which is it 疑問文についても敷衍可能であると考えられる。つまり、Which is it 疑問文を発話する話し手の意識の中には、選択対象となるどちらのことがらも所与の情報ではあるが、両者が両立して話し手の知識に存在するものとしては受け入れがたく、まだ十分に知識としては定まっていない。そこで、話し手は定まった情報として知識に取り込むのはどちらのことがらであるのかを Which is it 疑問文を用いて相手に問うと考えられる。では、実際の用例を観察しながら Which is it 疑問文の選択対象となる情報について分析しよう。

まず、Which is it 疑問文が相手の内心を問う場合がある。相手の内心や決意などは話し手

の知識の及ばないところですので既に情報が定まっているからであると考えられる。

- (15) Old Man in bank: Well, *which is it* young feller? You want I should freeze or get down on the ground? (Movie script from *Raising Arizina* (1987))

(15)は「若者よ、どっちなんだ？私に動かないでほしいのか、それとも地面にかがんでほしいのか？」という意味を表わし、相手の心中においてどちらが決定済みであるのかを問うている。また、次の例においては、*Which is it* 疑問文に *be going to* が用いられており、一見すると矛盾する相手の態度を話し手が認知したうえで、「一体どちらになるのか」決めるように相手に求めている。

- (16) Thomas Devoe: I'd like to know something. You moved from Lawrence Livermore to the White House. So, first you build the bombs to blow up the entire world, and now you want to save it. Make up your mind: *which is it going to be?* (Movie scripr for *The Peacemaker* (1997))

Which is it 疑問文には(16)のように未来を表わす *be going to* だけではなく、以下に示すように *will* や *be to* といった表現も生じ、「どちらになるのか？」という意味を表わす。

- (17) You are visited by a demon, and he gives you a terrible choice. You can lose your sight or you can lose your hearing. *Which will it be?* (*The Guardian*, January 31, 1999)

(17)は「悪魔があなたのもとに訪ねてきて、目が見えなくなるのと、耳が聞こえなくなるのではどちらがよいか選択を迫るとする。どちらを選ぶことになるのか？」といった意味を表現し、悪魔が課す選択はいずれも聞き手が積極的に選択する類のものではないが、必ずどちらかに落ち着き、定まることになるという話し手の意識が働いている。そのため、情報として定まるのはどちらになるのかを問う *Which is it* 疑問文が用いられていると考えられる。

次の例では、「あなたの外国事情に関する深遠な知識から、今日の国際情勢についてお話を伺うのが筋かとも思えますし、あなたは英本国のことについて話されたいとも思えますし、一体どちらを聞くことになるでしょう？」と相手の意思を直接問うというよりも、本来はどちらが筋か、事の成り行きとしてどちらに落ち着くべきかを相手に問うている。

- (18) “Well now, Mr Eden,” Mitchell began, “with your very considerable experience of foreign affairs, it’s quite obvious that I should start by asking you something about the international situation today - or perhaps you would prefer to talk about home? *Which is it to be?*” Eden opted for home affairs. (*The Guardian*, November 11, 2000)

Which is it 疑問文は過去時制もとりうることを念のために確認しておく。次の例では主動詞

に was が用いられて Which was it となっている。

- (19) a. *Which was it* – he was a monster for knowingly subjecting patients to a horribly dangerous drug, or a monster for NOT allowing them to take it?
(H. Stein, *The Magic Bullet*)
- b. “It’s (Waxman’s) point that tobacco companies are trying to get influence by making planes available in order to get a bill passed - and then he’s saying those same companies tried to get influence by making planes available in order to not get a bill passed,” said Rep. John Linder of Georgia, chairman of the National Republican Congressional Committee. “*Which was it?* You can’t have it both ways.”
(*The San Diego Source*, July 20, 1998)

(19a-b)では、確定していたのはどちらの情報であったのかが問われている。

続いて、次例を考えよう。

- (20) Firewire is a fast port, on both Macs and PCs, that's used primarily to transmit video between cameras and computers. It's becoming the industry standard, which is why it's important for a Mac to have one. But the lack of a PC-card slot will be a bummer to those who use them on their current laptops.
So, *which is it* for you, iBook or TiBook? It’s a tough choice. I hope you have better luck than I have. I’m still singing, “Did you ever have to make your mind?”
(BusinessWeek on line, June 20, 2001)

(20)は「結局、あなたはどちらになるの？。iBookなのか、それとも TiBookなのか？それは悩ましい選択だ。」といった意味を表わし、どちらのコンピュータにするのかは聞き手にも容易に決めがたい選択(tough choice)であると話し手が考えていることがわかる。換言すれば、話し手の知識の及ばないところで聞き手の選択がすでに定まっているはずだという意識のもとで Which is it 疑問文が発話されていると考えられる。次の例では、相手が下した以前の判断と、現在の判断とを対立させ、現在定まっているのはどちらであるのかを問うている。

- (21)(=10a) QUESTION: You said he was outraged this morning. Now, you say his reaction is a matter of fact. *Which is it?*
MCCURRY: I’ve given you the statement that he’s outraged about the allegations. I’m telling you about the business that the president has attended to on behalf of the American people.
(*CNN Transcript of White House Press Secretary Mike McCurry’s Briefing*, January 21, 1998)

このように Which is it 疑問文はすでに情報として定まっていることがらはどちらであるのかを問う疑問文であることから、事の真相を追究する審理などの尋問でしばしば用いられる。次例では、司法委員会聴聞会での審問に Which is it 疑問文が発話されている。

- (22) When he was in Africa the President Clinton denied knowing about the assertion of executive privilege, *which is it?* Did Mr. Ruff ever amend his declaration or was the president lying to the public on his Africa trip? (CNN Transcript of Judiciary Committee Impeachment Hearing, November 19, 1998)

次も裁判の尋問で Which is it 疑問文が用いられている例である。

- (23) Then we have one of two possibilities, obviously. One of you is not telling the truth or is there any possibility that the both of you were seeing the same thing, both of you were seeing the robbery but seeing it entirely differently. *Which is it?* Is it that one of you absolutely is not telling the truth or one of you - or both of you rather - are viewing the same events differently? (Hearing of the Senate Judiciary Committee on the Nomination of Clarence Thomas to the Supreme Court, October 12, 1991)

(22)-(23)が示すように、あいまいな事の真相や実情を相手に確かめることを目的とする聴聞会での質問や裁判所の尋問において Which is it 疑問文が使用されることが確認できる。

本節では、具体的な用例を提示しながら、Which is it 疑問文の基本的意味は、発話に先立ってすでに情報として定まっているのはどちらかを相手に問うことであると説明した。

3. Which is it 疑問文の語用論的効果

Which is it 疑問文は、発話に先立ってその答えがどちらかにすでに定まっているものにとらえたうえで、その答えを相手から聞き出そうとする状況で用いられる。これは、前節で考察したように、Which is it 疑問文がすでに成立している情報を積極的に表わす it を主語に立てて、それが前後の文脈で提示される二つの情報のどちらであるかを問う疑問文であるからである。そのため、Which is it 疑問文は、事実はどちらかに定まるものであるにもかかわらず、どちらが事実であるのかという情報が話し手の知識にまだ取り込まれていないという意識で発話される。そのため、相手が真相を披瀝しなければ話し手には知りたいような場合には、相手に真実を問い詰めたり、問い質すような含みを伴って用いられることが多い。次の例を考えよう。

- (24) ‘Come!’ said the stranger, biting his forefinger at him. ‘Don’t evade the question. Either you know it, or you don’t know it. *Which is it to be?*’

(C. Dickens, *Great Expectations*)

(24)では、‘Don’t evade the question’. (質問をはぐらかすな) という発話に後続して **Which is it** 疑問文が用いられていることから明らかのように、あることがらを相手が知っているのか、それとも知らないのかを厳しく問い詰めている。同様の語用論的効果は、次の例についても観察される。

(25) “Now, Charlotte!” She struck at her playfully. “You kind, anxious thing! What would you have me do? First you say, ‘Don’t tell’; and then you say, ‘Tell.’ *Which is it to be? Quick!*” (E. M. Forester, *A Room with a View*)

(25)は「はじめは「話すな」と言っていたのに、それからすぐに今度は「話せ」という。一体、どっちなんだ？早く答えろ。」といった意味を表わす。この例においては、相手の一貫しない態度や言明に対して叱責の念をこめて **Which is it** 疑問文を話し手が発話していることがわかる。

また、相手から直接の答えを期待するのではなく、相手の発言の矛盾を突くことに発話の主眼がおかれていると考えられる **Which is it** 疑問文の用法がある。次の例を考えよう

(26) President Clinton now says that if he had known about the Chinese government trying to funnel money into his campaign, he would have been more cautious about whom he let into the White House. He has already said that the stakes were so high that he had to do whatever was necessary to bring his level of contributions closer to what the Republicans received. *Which is it, Mr. President?* (CNN.com. Voter’s Voice, March 12, 1997)

(26)では、大統領の現在の発言と過去の発言とを対立的に取り上げ、どちらが正しいのかを大統領に呼びかけて問う形で **Which is it** 疑問文が発せられている。**Which is it** 疑問文がこうした含みを伴うのは、どちらの情報も定まったものとして話し手の知識に取り込みがたい、つまりお互いに矛盾しているのではないかという意識のもとで、大統領の発言の真意を明らかにしながら、読み手と共に真相を究明しようとする話し手の姿勢が表れている。

さらに、(27)では「一体、どっちになるんだ、生か死か？決定するのに3分しか与えない。」と相手がどちらかに決定することになるのを必然と捉え、詰問調に相手に選択を迫っている。

(27) Either you are heart and soul with us on your oath on the cross of the Christians, or your body this night shall be thrown into the ditch, and we shall pass over to our brothers in the rebel army. There is no middle way. *Which is it to be - death or life? We can only give you three minutes to decide, for the time is passing, and all must be done before the rounds come again.* (C. Doyle, *The Sign of Four*)

本節では、**Which is it** 疑問文は状況によっては相手に事実を問い詰めたり、発言の矛盾を突

くといった語用論的含意を帯びることを実際の言語資料に基づいて観察した。

4. Which is it 疑問文と日本語の「{どちら／どっち}なの(か)」疑問文

これまで論じてきた Which is it 疑問文は日本語の「{どちら／どっち}なの(か)?」という疑問文と類似した意味、機能をもつように思われる。次の二つの疑問文を比べてみよう。

- (28) a. そば?それともうどん?どっち?
b. そば?それともうどん?どっちなの?

相手にメニューを尋ねる場合、(28a)の「どっち?」が用いられるのは相手がうどんかそばかまだ決めていないと話し手が考えており、(28b)の「どっちなの?」が用いられるのは友人がどちらかを注文しようと内心においてすでに決定済みであると話し手がみなす場合である。さらに、次の例を考えよう。

- (29) (トランプのババ抜きで2枚残った手元のカードを相手に見せて)
a. はい、どっち?
b. ??はい、どっちなの?

(29)では、話し手はこれからカードを引く相手のその場での瞬間的判断を求めている。このような状況では、(29b)の「どっちなの」を用いるのは不自然である。「どっちなの」が用いられるとすれば、それは相手がどちらのカードを引き抜こうか迷っているような場合である。本節では、田野村(1990)の「のか」疑問文に関する分析に基づきながら、Which is it 疑問文と「{どちら／どっち}なの(か)?」疑問文の普遍性について論ずる。田野村(1990)は、日本語の「のか」で終わる疑問文は、一般に、その答えがすでに定まっている状況でなければ用いることができないと述べ、話し手自身が容易に答えを出せるようなことがらを尋ねるときには「のか」は不適當になりやすいと指摘している。

- (30) a. お生まれは{どちらですか／どちらなんですか}?
b. きょうは{何曜日ですか/?何曜日なんですか}?
(31) a. あなたたち、先週の日曜日はどこに{行った／行ったの}?
b. わたしたち、先週の日曜日はどこに{行った/?行ったの}?

田野村(1990)は(30)、(31)の容認可能性の相違について次のように説明している。つまり、他人の出生地は教えられるなどしなければ知りようがないから、(30b)のように「のか」を用いて尋ねることができる。しかし、きょうの曜日は、通常の場合であれば、誰にでも容易に明らかにすることができるから、「のか」を用いるのは不自然になる。また、他人の行動は、必ずしも容易には知り得ないから、(31a)の「あなたたち～」の文では、「のか」を用いることはできる。しかし、「わたしたち～」の文では、「のか」は不適切である。答えとなるべ

き情報を問い手は失念していて容易には想起できないということもあろうが、それにしても、自分自身の行動に関わることがらである以上、本質的に問い手にとって知りたいということにはならないということになる。この田野村 (1990)の分析に基づくならば、先の(28)-(29)の「のか」を伴う選択疑問文「どっちなの(か)?」の容認可能性の判断においても、相手の知識においてその答えがどちらかにあらかじめ定まっているかどうかということが関わっていると考えられる。さて、前節までの考察から明らかなように、Which is it 疑問文もまた、その答えがどちらかにすでに定まっていると想定される場合に用いられる。Which is it 疑問文は、発話に先立ってすでに話し手の知識において定まっているのはどちらであるのかを尋ねるのに用いられることから、その場で相手が決定するようなことさらに用いるのは適当ではない。そのため、次のような状況で Which is it 疑問文を用いることは自然ではない。

(32) (At the fast food restaurant)

A: What would you like?

B: A cheeseburger and a small-sized coke, please.

A: {For here or to go? / ?? Which is it, for here or to go?}

B: For here.

「ここで食べるか、それともテイクアウトするか」ということは相手のその場での決定を尋ねるものであり、発話に先立ってあらかじめ定まっているものと話し手が捉えていることを積極的に表現する Which is it 疑問文は不自然である。

5. まとめ

本稿では、従来の研究において十分に取り上げられてこなかった Which is it 疑問文について、実際の言語資料を観察しながらその構造および基本的意味・機能を考察した。Which is it 疑問文は、発話に先立ってその答えがどちらかにすでに定まっているものととらえたうえで、その答えを相手から聞き出そうとする状況で用いられることを実証的に検証した。また、日本語の「のか」を伴う選択疑問文と Which is it 疑問文とが類似した意味を表現することを明らかにした。

References

- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. London: Longman. 中右実訳. 1981. 『意味と形』 東京: こびあん書房
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.
- 大竹芳夫. 1994. 「It is that 構文に関する意味論的、語用論的考察」『英語語法文法研究』 創刊号, 117-131. 英語語法文法学会.
- 大竹芳夫. 1997. 「指示と情報—That's all right と It's all right を中心として—」『信州大学教育学部紀要』 第91号, 61-72. 信州大学教育学部.

大竹芳夫. 1998. 「Why is it/How is it 疑問文の意味と機能に関する実証的考察」『英語語法文法研究』第 5 号, 95-110. 英語語法文法学会.

Otake, Y. (大竹芳夫) 1998. "Some constraints on modal auxiliaries in the *It is that*-construction," *Journal of Faculty of Education* Vol.95. 69-78. Shinshu University.

田野村忠温. 1990. 『現代日本語の文法 I —「のだ」の意味と用法—』 大阪:和泉書院.

安井稔. 1996. 『改訂版 英文法総覧』 東京:開拓社.